みんなのページ

身の回りの出来事などを500字程度にまとめて投稿してください。紙面の都合上、若干手直しさせていただくこともあります。あて先は(〒950-1292 白根市大字白根1235 白根市企画財政課秘書広報係)です。

昨年十一月、郵政省主催の「かんぽ作文コンクール」自由題部門で、山田小百合さん（新飯田小学校五年生）が郵政大臣賞を受賞しました。その作品をご紹介します。

怪物「ねーね」

山田小百合

私のお姉ちゃんは、怪物です。

通称「ねーね」は身長、一五六センチ、体重、重め、顔の色は真っ黒で、ヘアスタイルを「ぼうずあたま」のように短くしている、高校三年生です。

スポーツ万能で、柔道と水泳、陸上をやっていました。柔道ではかんとう賞、水泳は平泳ぎで優勝したことがあります。陸上では百メートルで、今でも全校の女子の中で一番速いと自慢しています。

ねーねは高校で、ソフトボール部に入っています。サードで三番を打っています。毎日、外で練習しているから、顔が真っ黒なのです。

私は、五月十二日にお母さんとねーねの試合を応援に行くことになりました。ところが試合の前日、ねーねが四十度近くの熱を出してしまい、試合に出られるかどうか、部活の人やお母さん、みんなが心配していました。当日も熱は下がらず、三十八度三分の高熱でしたが、それでもねーねは、試合に出ました。

その日はちょうど夏日だったため、ねーねの顔は熱があったこともあって、いっそう真っ赤でした。

ねーねは、試合が始まる前の練習の時から、熱でつらそうだったので、「大丈夫かなあ。途中でたおれたりしないかなあ」と思い、とても心配でした。第一試合は、今までに勝ったことのない強いチームだったので、「ぜったいに勝つ」と、ねーねはいきごんでいました。

試合が始まりました。みんなの「勝ちたい」という気持ちが一つになったのか、打つ方も守る方も良くできていました。そして相手のミスにも助けられ、見事勝つことができて「ヤッター」と私は、思いました。

第二試合は、相手のチームと普段練習試合をしていて、勝てる相手だったので、ねーねは、試合には出ていませんでした。

試合は予想どおり勝っていて、だれが見ても完全に勝てる試合で、私は「なんだあ、余裕じゃん」と思いました。

ところが、ねーねが休みに行ったとたん、急にチームにミスが出て、一気に五点も入れられてしまいました。私は「まだ時間はあるし、大丈夫、大丈夫」と、心の中で応援したけれど、うちの攻撃は元気がなくて、点を入れることはできませんでした。「ねーねが出てくれれば…」と私は思いました。

ねーねは前の試合で疲れたのか、熱がもっと出てきたらしく、顔が真っ赤でベンチから離れて休んでいます。私は「気持ち悪いんだろうなあ」と思いました。最終回はなんとか守りきりました。そしてうちの最後の攻撃になってしまいました。三点入れなければ勝つことができません。一人目はフライを上げてしまい、ワンアウト。二人目も三振してしまい、ツーアウト。そして三人目。応援しているみんなが、あきらめかけたその時！監督の「代打、山田」と言う声がしました。そして休んでいるはずのねーねが、いつの間にかバッターボックスに立っていました。お母さんも私もびっくりしました。

そして、ピッチャーが第一球を投げた瞬間に、「カキーン」とライト前へボールが飛んでいき、ねーねは一塁に行きました。

すると、それがきっかけで、みんなの気持ちが一つになったのか、次の人がもう少しでホームランというくらいのヒットを打ち、ねーねは三塁に。

いきなりお母さんが「ホームベースに帰ってこないとご飯ないよ」と言いました。そして次の人が、期待どおり打ってくれました。そして、みんなホームに帰ってきて、逆転、サヨナラで勝ちました。

お母さんは帰りの車の中で、「あの試合、ねーねがいなかったら負けたよね。母の日のとてもいいプレゼントだったよ」と言いました。私も、「ほんとにそのとおりだ、やっぱりねーねは怪物だ」と思いました。

私は、最後まであきらめてはいけないということを、ねーねから教わり、そのことをみんなに伝えたくて、この作文を書きました。

私のお姉ちゃんは、スマートできれいなお姉ちゃんではありませんが、やさしくて、頼りになるお姉ちゃんです。

そして、怪物です。

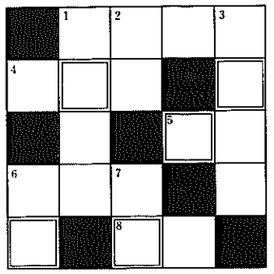
市民文芸

俳句

マラソンの先々へ飛び初鳥　五十嵐寛吾
魔して入歯とび出し初笑い　五十嵐智恵子
鶴首に足りし一輪水仙花　笠原　里津
無一物たること難し良寛忌　安澤　飛浪
七草の寄せ植え飾る老舗かな　小林　光子
葱引けり畝の端よりそくそくと　小林　すみ
木兎のつぶらな眼ぱちぱちと　公條　雪夫
凩のすさぶ巷に月高し　樋口　トシ
ごろごろと並べ売らるる達磨市　和泉　伸子
縮緬の端切れで出来し龍飾る　勝山　絢子
鯉の煮られて蟄を伸しけり　古川　綾
陶狸徳久利下げて春を待つ　堀内ナナ子
たかだかと冬の満月レモン色　相田　照子
冴え返る熟年今日の灯をともす　山田　栄一
十二支をはみ出し猫の恋狂ひ　真嶋つぎえ
生き甲斐といふ淡きもの野水仙　丸山　虚秋
野水仙子が来てうたう愛唱歌　小林富沙子
鉢植のミニ水仙をいただきぬ　松下　聡
夜は夜の刻の移りや冴返る　登石　詩子
活けられて向き各おのや水仙花　小林　なお
川の瀬を水鏡して猫柳　遠藤　大蔵
漱石の髭の威厳や猫の恋　小野　義之
冴返る物音のなき金色堂　小林里代子
裏口の鍵をかけずに猫の恋　知野信一郎

広報クイズ

図書券が当たる！



□の中の字を並べてください。
別れの季節がやってきました

◆ヨコのカギ
①神社で、参拝者が手や口を洗い清める所
④ハンドルにはこれが必要
⑤胃袋が４つあります
⑥いろは、読む人、取る人、お手つき
⑧歩行の助けに携える細長い棒

◆タテのカギ
①おふくろの味
②着物を着るとき、足にはくもの
③忘れるべからず
⑥出掛けるときは忘れずに
⑦今年の干支

はがきに答え（完成図は不要です）、**住所、氏名、年齢、市や広報紙への意見**を書いて、3月17日(金)必着で白根市企画財政課秘書広報係（〒950―1292 白根市大字白根1235）へお送りください。

正解者の中から抽選で2人に500円の図書券、3人に粗品を差し上げます。正解者の発表は4月1日号で行います。

2月1日号の正解は**スケート**。正解者は38人でした ▼**図書券** 笠原いずみ（上鷲ノ木）、飯原キク（浦梨） ▼**粗品** 渡辺謙三（七軒町）、小林望（中央通6）、川島舞（大通南2）

広がれ健康家族

特産品を味わう その8 旬を食べよう ～イチゴ～

⑩保健福祉課 ☎(内)237

江戸時代に渡来したイチゴ。ハウス栽培の普及で収穫がどんどん早まり、収穫期間も延びて収穫量が増加、現在日本は世界でもトップクラスのイチゴ消費国になっています。

栃木県の「とちおとめ」、福岡県の「とよのか」が有名ですが、新潟生まれのイチゴがあることを知っていますか。それは平成六年に平山知事の命名でデビューした「越後姫」です。平均十五グラムと大粒で、鮮紅色のつやのある肌、バランスのいい甘味と酸味を持った品種です。新潟市や紫雲寺町、五泉市などで栽培されていますが、白根市でも試験的に栽培する農家が増えています。地元の味を楽しめる日も、そう遠くなさそうです。

イチゴといえば、ビタミンCの王様。五粒で一日の必要量五十ミリグラムを摂取できます。ビタミンCには、血管や皮膚の強化・貧血予防・免疫力の増強・抗ガン作用などがあり、動脈硬化性疾患の抑制効果も注目されています。

ただし、ビタミンCは二時間から三時間で排出されるので、毎食野菜や果物から摂取するのが効果的です。

ストロベリーショートビスケット

〔材料〕（直径６㎝のもの10個分）

薄力粉	300ｇ	イチゴ	１パック
砂糖	大さじ２	リキュール	大さじ１
塩	小さじ１／３	砂糖	大さじ２
ベーキングパウダー	大さじ１		
無塩バター	120ｇ	生クリーム	200cc
牛乳	100cc	砂糖	大さじ２
ブレーンヨーグルト	大さじ４～５		

〔作り方〕

①薄力粉・ベーキングパウダー・砂糖・塩を合わせてふるい、バターを１㎝角に切って加え、手でよくすり混ぜる。

②牛乳とヨーグルトを加え、軽くこねてひとまとめにし、２㎝の厚さにのばして型で丸く抜く。190度のオーブンで20分焼いて冷ます。

③イチゴを半分に切り、砂糖とリキュールをまぶす。砂糖を加えて八分立てにした生クリームとともにビスケットの間に挟む。

短歌

兄征きし樺太の地図眺めて戦死せし辺りに太き線引く　根岸　資郎
雪消えを待ちかねしごと蕗の薹踏むなとばかり黄色目にたつ　大籏　イツ
我が妻の強き励ましありてこそ障害越えて現在の幸せ　河内　勝哉
降りしきる雨に目覚めし夜半ふかく我が来し方の旅路を思う　出来島ミサホ
新しき三月が過ぎて厨辺の水少しずつ柔らぎてきぬ　田中　恭子
心眼の入りし達磨に願い込め家族で開眼快癒を祈る　阪井いくの

川柳

黄昏れて荒野のごとき白髪抜く　渡辺　勤
何もせず大風呂敷を広げけり　丸山　一郎
原点に置く刻の早さよ老いの冬　織田　セツ
足音をしのばせてくる流行風邪　今井八重子
忍の字が自信に変る五十年　岡　満記子
最後まで笑いはとって置くわたし　佐藤　ヨキ
ひと皿を夫婦で旅のところてん　鈴木　テフ
雛の絵手紙で弥生のヒコ祝う　高橋祐四雄
生涯の一句が出来た日の微熱　田村　恒夫
雛壇に解散前の勢揃い　中村　尚治
秤にはかけられません父母の愛　西条　ムラ
味噌汁の香りで我が家目を覚ます　山岡　フミ
匿名の封書で揺れる不整脈　吉川　彰
二代目に渡す税金処理係　今井　七郎
梅の香に過ぎし日の妻偲ぶ春　大谷　龍吉